

越後佐渡おもひろ歴史ばなし

いったいいくつあるんだらう？—越後七不思議のふしぎ—

江戸時代の越後に関する案内書や紀行文に「越後七不思議」がでてきます。現在でも、「焼鮎」(注1)や「数珠掛桜」(注2)など親鸞の伝説にまつわるものが有名です。

越後七不思議とは、古くから越後国に伝わる珍しい事柄の総称ですが、不思議な事柄は必ずしも同じものが記されているわけではなく、さらには七不思議と言いながら、7つとも限りませんでした。

では、なぜ越後七不思議と言いながら、7つ以上の不思議があるのでしょうか。

水原(現阿賀野市)の書籍商小田島允武は、文化12年(1815)に記した『越後野志』で「どの不思議が本来の七不思議なのかは誰も知らない。そのため、旅行者が越後に来て地元の人々に越後七不思議について尋ねると、人によって様々な答えが返ってくる。それをすべて書き残していくから、七不思議の数が増えていくのだ。」と述べています。

例えば、安政4年(1857)に刊行された水戸の高橋克庵が記した紀行文『北遊紀行』に七不思議の記述が窺えます。克庵が如法寺村(現三条市)の「火井」(注3)を訪れたときに越後七不思議というものがあることを教えてもらい、七不思議は「火井」のほか「燃ゆる水」(注4)、白兎(注5)、胴鳴(注6)、海鳴(注7)、無縫塔(注8)があり、残るひとつは「三度栗」(注9)や「即身仏」(注10)、「塩井」(注11)など諸説あると述べています。さらに、そのほかにもあるとして合計22個の不思議を紹介しています。

また、慶応4年(1868)に発行された『北越名所旧跡奇物名産地理案内之全図』にも越後七不思議が載っています。この絵図では、七不思議が7種類もあり合計49個の不思議が紹介されています。これは、現在確認されている越後七不思議の中で最も多い組み合わせとされています。

越後七不思議の数は、旅人が多くなった江戸時代後期には、上記のようにたくさんになりました。

このように、現代であれば解明できる不思議と思われることも含めて、たくさんの不思議が越後国にはあったということが、様々な資料からわかります。

今後発見される越後の紀行文や案内書には、現代

の私たちの知らないたくさん不思議が眠っているかもしれません。

注1…桜の枝の断面に、親鸞が食膳から逃がした焼鮎の形が見える不思議。

注2…数珠のように花の房がつながって咲く桜のこと。

注3…天然ガスが出る所。

注4…石油のこと。または、石油が湧き出る所。

注5…冬になると毛の色が白く変化するウサギのこと。

注6…一説には、源義綱に討たれた黒鳥兵衛の別々に埋められた首と胴が一緒になりたいと音が鳴る不思議。(実際には雷の音か。)

注7…聞こえてくる潮の響きの方角から、これからの天気が変わる不思議。

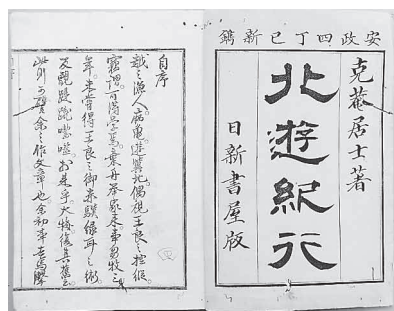
注8…川内(現五泉市)の永谷寺の住職が亡くなる頃に、早出川の淵から岸辺に墓石のような石が流れ着いた不思議。

注9…1年に3度実がなる栗の木のこと。

注10…野積浜(現長岡市)の西生寺にある弘智法印の肉骨がある不思議。

注11…与板(現長岡市)や栃尾(現長岡市)に塩水が湧き出る井戸がある不思議。

※越後七不思議の内容は諸説あり。



【北遊紀行】(請求記号：E9314-2-129)



【北越名所旧跡奇物名産地理案内之全図】

(請求記号：E9312-1-9)

令和元年度企画展「こんなのあります！地域の歴史資料！」を紹介します

2階の閲覧室及び1階のエントランスホールでは、1～2か月ごとにテーマを決めて所蔵資料を紹介する企画展を行っています。今年度は「こんなのあります！地域の歴史資料！」という統一したテーマで上越・中越・下越・佐渡の各地域の特徴的な資料を展示しています。

○第1弾 佐渡編（5月28日（火）から7月7日（日）まで）

佐渡の古地図や検地帳、佐渡新聞や新潟県指定文化財の「旧佐渡郡役所文書」などから、朱鷺や金銀山だけではない佐渡の魅力が感じられるような資料を展示しました。

○第2弾 上越編（7月9日（火）から8月25日（日）まで）

近世における大潟地区の人々が、洪水など度重なる災害に負けず苦難を克服しようとした姿がわかる資料を展示しました。また、上杉謙信の書状（複製）も展示しました。

○第3弾 中越編①（8月27日（火）から10月6日（日）まで）

中越は2回に分けて展示を行います。第1回は、同地域を代表する産業である「越後縮」について、鈴木牧之の『北越雪譜』や縮の生産、行商に関わる資料を展示しました。

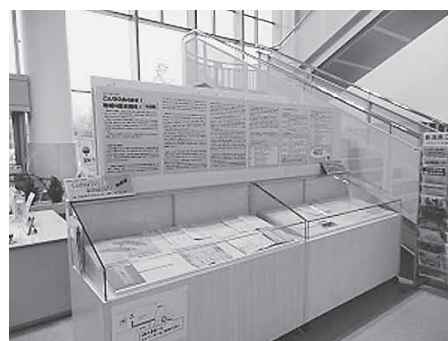
以降の企画展のスケジュールは以下の通りです。それぞれの地域の魅力を伝えられるような資料を展示する予定です。

○第4弾 下越編①（10月8日（火）から12月1日（日）まで）

○第5弾 中越編②（12月3日（火）から1月26日（日）まで）

○第6弾 下越編②（1月28日（火）から3月15日（日）まで）

○第7弾 県広域編（3月17日（火）から4月26日（日）まで）



令和元年度特別企画展について

令和元年10月29日（火）から11月10日（日）まで、「江戸時代の庄屋さまは超多忙!? ～越後・佐渡の村役人の世界～」というタイトルで特別企画展を実施します。

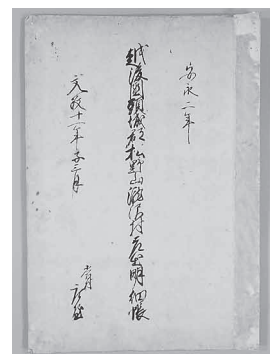
江戸時代には、優れた事務処理能力・文書処理能力を持った庄屋がそれぞれの村にいて、地方行政の末端を支えていました。その様子は、旧庄屋家などに保管されてきた村方文書によって知ることができます。庄屋をはじめとする村役人の仕事を、当館所蔵文書から紹介します。

展示資料一例

【頸城郡松野山瀧沢村差出明細帳（文政11年（1828）3月）】（請求記号：E9701-13）

村方から領主に提出した村の概要を記した帳簿です。村高、段別、年貢高、人別などが記載されています。

特別企画展では、村役人がどのような仕事をしているのかがわかる資料を多数展示する予定です。是非会場へお越しください。



平成30年度までに閲覧可能となった受贈文書

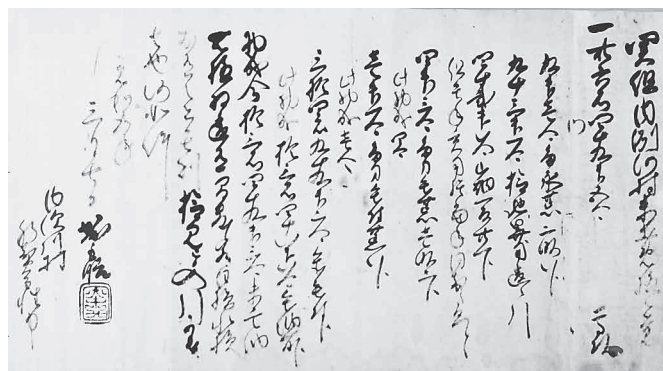
○平成30年度より、新たに閲覧可能になった受贈文書を紹介します。

請求記号	文書名	概要
E1404	大正期全国観光名所絵葉書ほか	宝暦7年～昭和25年、526点。磐越線津川の風景など収集された観光名所の絵葉書ほか。
E1702	昭和初期新潟中学校・海軍予科練関係教科書ほか	明治36年～昭和35年、121点。予科練の教科書など昭和戦前の時代相を物語る資料。
E1802	新潟県内高速道路建設関係資料	昭和41年～昭和58年、15点。北陸自動車道の建設予定路線図ほか。

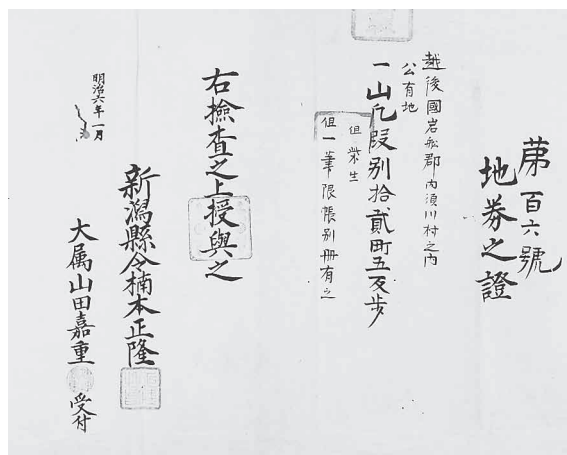
○E0806 越後各地文書の整理状況

「E0806 越後各地文書」は収集された文書群で、まとまりのある文書ごとに整理を進めています。平成30年度までに下記の資料が閲覧可能となりました。

請求記号	文書名	概要
E0806-1	越後各地文書（和本・洋本）	2,011点。近世・近代の刊行物。
E0806-2	越後各地文書 （岩船郡関川村平田家文書）	元和5年～昭和36年、251点。皆済目録や村鑑など村政に関わる文書。
E0806-3	越後各地文書 （岩船郡内須川村加藤家文書）	寛文7年～昭和21年、680点。年貢割付状や証文、初期の地券など村政に関わる文書。
E0806-4	越後各地文書 （北蒲原郡女堂村文書）	享保15年～昭和62年、719点。旧北蒲原郡笹神村女堂（現阿賀野市）の租税や土地利用に関する資料。
E0806-5	越後各地文書（収集幕閣他書状）	近世、15点。新潟県近郊に関する幕閣の書状など。



【関組内須川村未土免極覚】（請求記号：E0806-2-1）
元和5年の内須川村（現関川村）の年貢割付状



【地券之證（越後国岩船郡内須川村之内公有地）】
（請求記号：E0806-3-524-2）
明治の地租改正に伴い発行された初期の地券

令和元年度 10月以降の主催講座一覧

○古文書講座

講座名	日程	会場	定員	申込開始日
はじめての古文書講座（秋季）	11/14・21・28（木）	制作演習室	15名	10/11（金）
はじめての古文書講座（冬季）	1/15・22・29（水）	共同研修室1・2	15名	12/13（金）
古文書初級解説講座（冬季）	A：12/4・11（水） B：12/7・14（土）	大研修室	各60名	各コースとも 11/1（金）
古文書解説講座（冬季）	2/19・26（水）	ホール	180名	1/17（金）

※時間はすべて13：30～15：30の2時間です。 ※テキスト代として100円が必要です。
 ※古文書初級解説講座（冬季）については、A・Bコースともに同一内容です。

○「新潟県の歴史」講座

講座回	日程	会場	定員	申込開始日
第2回	11/30（土）	ホール	180名	10/18（金）
第3回	3/7（土）	ホール	180名	1/28（火）

※講師は県内外の歴史研究者を予定しています。 ※時間はいずれも13：30～15：30の2時間です。

講座回	日程	会場	定員	申込開始日
第2回	10/9（水）	ホール	180名	9/6（金）
第3回	12/18（水）	ホール	180名	11/15（金）

※講師は文書館職員です。 ※時間はいずれも13：30～15：00の1時間半です。

○特別企画展解説講座

コース	日程	会場	定員	申込開始日
Aコース	10/30（水）	大研修室	60名	各コースとも 9/27（金）
Bコース	11/6（水）	大研修室	60名	

※A・Bコースともに同一内容です。 ※時間はいずれも13：30～14：30の1時間です。

アーキビスト 文書館職員随想

4月に着任して数か月が経過した。「新潟県の歴史の情報センター」とも呼ばれる当館であるが、新潟県に關係する膨大な量の歴史資料を目の当たりにして、なるほどその理由の一つはここにあるのかと納得した。所蔵されている膨大な量の歴史資料は、開館以来27年間「保存なくして利用なし」の基本方針のもと収集してきた当館の活動の一部を物語る証左でもある。歴史資料を大切に保存しつつも、それをいかに活用するか。当館職員の腕の見せ所でもある。

さて、今年度は、講座により多くの方から参加していただけるように講座の回数を増やすとともに、「はじめての古文書講座」を平日だけではなく土曜日にも企画した。古文書解説講座や歴史講座、教養講座を通じて、当館が所蔵する歴史資料の存在を知ってもらうとともに、歴史を知る楽しさや学ぶ楽しさを多くの方にお伝えできればと考えている。

また、今年度の企画展では、県内の地域ごとにテーマを設定して、テーマに沿った地域の歴史資料を紹介している。限られた展示スペースではあるものの、お住まいの地域にゆかりの歴史資料をぜひ当館でご覧いただき、地域の歴史に興味・関心を持っていた

だければ幸いである。展示してある歴史資料は当館職員が検討に検討を重ねて、所蔵する歴史資料の中から厳選したものである。

講座にせよ企画展にせよ、使用する歴史資料の選択は大切なポイントである。興味・関心を持っていただけるような歴史資料の選択ができるよう、文書館職員として研鑽を重ねなければならないと感じている。

今日も個人研究、学術研究をはじめ様々な目的を持った利用者が、歴史資料を求めて当館を訪れる。唯一無二の歴史資料を後世に伝えるという重い責務を認識し、これからも教育機関として利用者のニーズにこたえられる文書館をめざして、日々の多様な業務に取り組みたい。

【小日向記】

編集・発行 **新潟県立文書館**

〒950-8602 新潟市中央区女池南3丁目1番2号
 TEL 025-284-6011 FAX 025-284-8737
 URL https://www.pref-lib.niigata.niigata.jp/?page_id=569
 E-mail archives@mail.pref-lib.niigata.niigata.jp